

# 生活に密着した支援の考え方

ロスキレ市補助器具センター

レポート：坂本 竜

## ★個々のニーズを大切に

デンマークの基本理念になる考えは個人個人がその生活をどうすれば継続できるかという事です。個々のニーズを大切にしています、補助器具提供の理念があります。

デンマーク人が生活の中で自分のことはできるだけ自分でしたいと考えており、できるだけ他人の助けを借りたくないとする人が多いとのことです。

## ★経済力に関係なくアクティブな生活を

もう一つの基本理念は、機能低下や障がいがあり生活が制限される場合も、経済力に関係なくアクティブな生活をできるようにするという事です。

倉庫内を見学しながらレクチャーしていただきました。倉庫には約1万9千種類の補助器具があり、物品には全てバーコードがあり、PCで管理されています。よく貸し出されるものはホスピタルベッドで、とても循環が早いとのことです。障がいを持つ方に対しては公費で色も選べ、ここに無ければ、現金が渡され自分で探すこともできます。作業療法士が、自宅やご本人の様子を伺いに行ったり、自宅改修も行なうということでした。

施設や自宅には壁と天井の枠に特殊な移動可能なリフトを引っ掛ける器具があり、自立支援と支援者に対する介護軽減の工夫がありました。

また、ベッドと車いす間の移乗もリフトが使用されることがほとんどとのことです。返却器具の清掃や修理をするスタッフが腰痛にならないために、しゃがんで作業ではなく、作業するものがリフトで上がる工夫やデスクも高さ調整可能なものがありました。このような工夫で労災にかかる公費をなくす



のもデンマークの考え方ようです。

## ★感想

デンマークでは、施設入所された方もベッドや車いす等、自立を支援するためにその方に合わせた補助器具が借りられることや生活に密着した支援や自宅改修、コーディネート等、作業療法士の役割の広さに驚きました。

職員に対しても腰痛予防のために様々な工夫があったり腰痛予防の意識が感じられました。

ロスキレ市補助器具センターを訪問して、その人らしく歳を重ねていけるということの価値観が大きく広がりました。

